



## 令和2年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

令和元年9月9日

上場会社名 株式会社ストリーム 上場取引所 東  
コード番号 3071 URL <https://www.stream-jp.com/>  
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)齊藤 勝久  
問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)齊 向東 (TEL)03(6858)8189  
四半期報告書提出予定日 令和元年9月13日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 令和2年1月期第2四半期の連結業績(平成31年2月1日～令和元年7月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2年1月期第2四半期	11,419	2.5	73	—	68	—	31	—
31年1月期第2四半期	11,138	9.6	5	△89.0	3	△92.8	△10	—

(注) 包括利益 2年1月期第2四半期 33百万円(—%) 31年1月期第2四半期 △8百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2年1月期第2四半期	1 17	— —
31年1月期第2四半期	△0 38	— —

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2年1月期第2四半期	5,592	1,759	30.2
31年1月期	5,157	1,725	32.1

(参考) 自己資本 2年1月期第2四半期 1,689百万円 31年1月期 1,657百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
31年1月期	— —	0 00	— —	0 00	0 00
2年1月期	— —	0 00	— —	— —	— —
2年1月期(予想)	— —	— —	— —	0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 令和2年1月期の連結業績予想(平成31年2月1日～令和2年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,320	11.9	205	—	191	—	94	—	3 47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2年1月期2Q	28,525,000株	31年1月期	28,525,000株
② 期末自己株式数	2年1月期2Q	1,236,500株	31年1月期	1,236,500株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2年1月期2Q	27,288,500株	31年1月期2Q	27,288,500株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 決算補足説明資料の入手方法

決算補足説明資料は令和元年9月17日(火)に当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成31年2月～令和元年7月)におけるわが国経済は、各種政策等の効果もあって、緩やかな回復基調が続いており、雇用・所得環境の改善が続くなかで、個人消費も緩やかではありますが持ち直しているものの、消費者マインドは弱含みで推移しております。又、米国、中国をはじめとする海外の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響、金融資本市場の変動の影響等により、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループは、お客様のライフスタイル作りのサポートとして「より良い商品」「より良い価格」「より良いサービス」をモットーに、新しい価値観の提案・提供を通して社会の発展に貢献することを経営の基本方針に、既存概念にとらわれることなくチャレンジを続け、インターネット通販事業を中心に事業活動を行っております。

事業のセグメント別の業績は、次のとおりであります。

## ①インターネット通販事業

当第2四半期連結累計期間における国内の家電小売業界は、平成30年12月1日より新4K8K衛星放送が開始となり、テレビをはじめ冷蔵庫や洗濯機も高付加価値商品を中心に順調に展開しました。エアコン等の季節商品についても、令和元年5月中旬以降に気温が上昇したこともあり好調に推移し、又、令和2年1月の「Windows 7」サポート終了を見据えた買い替え需要によりPCも堅調に推移しました。

このような状況の中、当社が出店する「楽天市場」「Yahoo!ショッピング」「Amazonマーケットプレイス」等の外部サイトの売上は、引き続きOA周辺機器や掃除機・洗濯機を中心に堅調に推移しました。又、PC、タブレット等のOA機器についても前年同四半期比で伸長しており、今後も売れ筋商品の在庫施策等により更なる売上確保に努めてまいります。

サイト別では、「Amazonマーケットプレイス」については、在庫保管・商品配送代行サービス「フルフィルメント by Amazon (FBA)」により業務効率の改善を図り、取扱いアイテムも広げて売上は好調に推移しています。

一方、オリジナルサイト「ecカレント」では、WEB接客ツールのチャット機能により、お客様が希望する配送場所に応じた最短納期のスムーズな案内等が可能となり、在庫施策と連動させたプロモーションを展開し、設置サービスが必要な冷蔵庫、洗濯機等の大型家電の売上が大きく伸長し好調に推移しています。

各カテゴリにおける前年同四半期比では家電7.8%増、パソコン15.3%増、周辺機器・デジタルカメラ5.0%増となりました。

又、令和元年7月に会社設立20周年を迎えたのを機に、新プライベートブランド「イーネーズ(enas)」を今後展開していきます。コンセプトは、必要な機能をシンプルに絞り込み、更に“あったらいいね!”と思える便利機能を加え、洗練されたデザインで新しい価値を提案する、いいもの(商品)の提供を目指します。今秋、その第1弾となるアイテムの発売を予定しています。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は10,199百万円(前年同四半期比5.0%増)、営業利益118百万円(前年同四半期は8百万円の営業損失)となりました。

## インターネット通販事業の売上・来店客数推移

	売上高(百万円)	営業損益(百万円)	来客数(千人)	受注件数(千件)	棚卸資産回転率 (回転/年換算)
当第2四半期連結累計期間	10,199	118	10,539	626	10.2
前第2四半期連結累計期間	9,710	△8	6,729	726	9.9

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

(百万円)

	家電	パソコン	周辺/デジカメ	その他	合計
当第2四半期連結累計期間	5,007	976	3,517	696	10,199
前第2四半期連結累計期間	4,643	847	3,348	870	9,710

※当該数値は、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

## ②ビューティー&amp;ヘルスケア事業

株式会社エクソワンにおいて展開される、ビューティー&ヘルスケア事業では、新商品として、平成31年4月に、昨今の多様化するインバウンド需要により引き続き拡大が見込まれる訪日観光客のニーズを見据えたヒト幹細胞培養液配合の保湿美容液「ORIGAMI エクセレントセラム」、令和元年5月にマッサージで頭皮の健康を保ち、汚れを落として美しい髪を育む「XLUXES エグゼティシヤンスカルプブラシ」を発売し、売上は堅調に推移しています。

又、自身の肌に合うか一度試されたい方や、持ち運びに便利なサイズで旅先でも重宝するヒト幹細胞培養液配合スキンケアシリーズ「XLUXES スキンケアお試しセット」を8月より販売し、今後一層の販売強化を図ります。

売上高に関しましては、会員向け新ビジネスプラン「エクソスーパー」は好調を維持しましたが、第1四半期に引き続いて卸販売先の店舗展開等の影響もあり想定より売上の伸びが少なかったため、全体として前年同四半期を下回りました。一方、利益面に関しましては、原価及び広告宣伝費等の見直しによって当初の計画より上回りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は979百万円（前年同四半期比10.2%減）、営業利益34百万円（前年同四半期比48.1%増）となりました。

## ビューティー&amp;ヘルスケア事業の売上推移

(百万円)

	パーソナルケア	ヘルスケア	その他	合計
当第2四半期連結累計期間	776	164	39	979
前第2四半期連結累計期間	906	128	55	1,091

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

※当該数値は、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

## ③その他事業（「各種販売支援事業」、「オンライン・ゲーム事業」）

「各種販売支援事業」では、国内免税店21店舗において訪日観光客向け販売や株式会社エクソワン商品の会員向け販売のシステム・物流支援等を行っています。

平成31年1月～令和元年6月における訪日外客数は推計1,663万人で前年同期比4.6%増、消費総額は推計2兆4,326億円で前年同期比8.3%増の伸びとなりました。

「オンライン・ゲーム事業」では、共同企画・運営を行っているタイトルが、概ね計画通りに安定した売上を維持しております。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は302百万円（前年同四半期比41.6%減）、営業利益61百万円（前年同四半期比54.6%減）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は11,419百万円（前年同四半期比2.5%増）、営業利益73百万円（前年同四半期は5百万円の営業利益）、経常利益68百万円（前年同四半期は3百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純利益は31百万円（前年同四半期は10百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

## (資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べ434百万円増加し、5,592百万円となりました。これは主に、現金及び預金97百万円増加、商品537百万円増加、受取手形及び売掛金214百万円減少によるものであります。

## (負債の部)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ401百万円増加し、3,833百万円となりました。これは主に、買掛金409百万円増加、短期借入金90百万円増加、未払法人税等32百万円減少、長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)44百万円減少によるものであります。

## (純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ33百万円増加し、1,759百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益31百万円の計上によるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ96百万円増加し、679百万円となりました。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果増加した資金は、79百万円(前年同四半期は19百万円使用)となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益58百万円、売上債権の減少額214百万円、仕入債務の増加額409百万円であり、支出の主な内訳は、たな卸資産の増加額532百万円、法人税等の支払額62百万円によるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、25百万円(前年同四半期は69百万円使用)となりました。収入の主な内訳は、差入保証金の回収による収入30百万円であり、支出の主な内訳は、無形固定資産の取得による支出56百万円によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果増加した資金は、42百万円(前年同四半期は81百万円使用)となりました。収入の内訳は、短期借入金の純増額90百万円であり、支出の主な内訳は、長期借入金の返済による支出44百万円によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和2年1月期の業績予想に関しましては、平成31年3月14日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

なお、今後、業績予想の修正の必要性が生じた場合には速やかに開示する予定であります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成31年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和元年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	585,192	682,440
受取手形及び売掛金	1,315,828	1,101,760
商品	2,183,559	2,720,601
その他	113,535	189,881
流動資産合計	4,198,115	4,694,683
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	124,509	121,106
車両運搬具(純額)	5,286	8,370
工具、器具及び備品(純額)	38,051	30,294
土地	2,003	2,003
有形固定資産合計	169,850	161,774
無形固定資産		
ソフトウェア	336,205	316,123
その他	22,792	19,043
無形固定資産合計	358,998	335,167
投資その他の資産		
投資有価証券	12,557	12,464
出資金	270	270
差入保証金	398,494	368,684
その他	35,220	35,332
貸倒引当金	△15,876	△15,876
投資その他の資産合計	430,665	400,875
固定資産合計	959,514	897,817
資産合計	5,157,630	5,592,501

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成31年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和元年7月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,578,333	1,987,819
短期借入金	1,000,000	1,090,000
1年内返済予定の長期借入金	88,800	88,800
未払金	375,448	359,893
未払法人税等	66,118	33,422
賞与引当金	18,791	5,848
ポイント引当金	9,872	9,188
その他	134,967	139,469
流動負債合計	3,272,330	3,714,440
固定負債		
長期借入金	55,620	11,220
その他	104,250	107,800
固定負債合計	159,870	119,020
負債合計	3,432,201	3,833,461
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	924,429	924,429
資本剰余金	876,888	876,888
利益剰余金	9,081	41,042
自己株式	△152,609	△152,609
株主資本合計	1,657,789	1,689,751
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	177	85
その他の包括利益累計額合計	177	85
非支配株主持分	67,460	69,203
純資産合計	1,725,428	1,759,039
負債純資産合計	5,157,630	5,592,501



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成31年2月1日 至令和元年7月31日)
売上高	11,138,354	11,419,924
売上原価	8,597,392	8,840,688
売上総利益	2,540,962	2,579,236
販売費及び一般管理費	2,535,055	2,505,530
営業利益	5,907	73,706
営業外収益		
受取利息	47	4
受取配当金	17	18
受取手数料	62	632
為替差益	4,390	496
その他	703	798
営業外収益合計	5,220	1,949
営業外費用		
支払利息	5,556	5,019
支払手数料	1,244	1,785
その他	945	-
営業外費用合計	7,746	6,805
経常利益	3,381	68,850
特別利益		
固定資産売却益	535	348
特別利益合計	535	348
特別損失		
固定資産除売却損	-	0
特別調査費用	-	11,005
特別損失合計	-	11,005
税金等調整前四半期純利益	3,917	58,193
法人税等	12,852	24,489
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△8,934	33,703
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,385	1,742
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△10,320	31,961

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成31年2月1日 至令和元年7月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△8,934	33,703
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	34	△92
その他の包括利益合計	34	△92
四半期包括利益	△8,900	33,611
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△10,286	31,868
非支配株主に係る四半期包括利益	1,385	1,742

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成31年2月1日 至令和元年7月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,917	58,193
減価償却費	94,162	93,531
特別調査費用	-	11,005
賞与引当金の増減額(△は減少)	200	△12,943
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△6,355	△684
受取利息及び受取配当金	△64	△22
支払利息	5,556	5,019
為替差損益(△は益)	142	73
固定資産除売却損益(△は益)	△535	△348
売上債権の増減額(△は増加)	△50,466	214,067
たな卸資産の増減額(△は増加)	11,867	△532,879
仕入債務の増減額(△は減少)	△73,619	409,485
その他	31,590	△87,459
小計	16,396	157,040
利息及び配当金の受取額	717	22
利息の支払額	△5,278	△4,764
特別調査費用の支払額	-	△11,005
法人税等の支払額	△31,062	△62,026
営業活動によるキャッシュ・フロー	△19,227	79,265
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△300	△300
有形固定資産の取得による支出	△942	△555
有形固定資産の売却による収入	-	2,777
無形固定資産の取得による支出	△59,888	△56,732
差入保証金の差入による支出	△39,324	△363
差入保証金の回収による収入	31,047	30,000
その他	48	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△69,359	△25,173
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	-	90,000
長期借入金の返済による支出	△80,400	△44,400
その他	△1,307	△2,743
財務活動によるキャッシュ・フロー	△81,707	42,856
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△170,294	96,947
現金及び現金同等物の期首残高	619,523	582,742
現金及び現金同等物の四半期末残高	449,228	679,690

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

## (セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自 平成30年2月1日 至 平成30年7月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益計算書計上額
	インターネット通販事業	ビューティー&ヘルスケア事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	9,710,341	1,084,883	343,129	11,138,354	—	11,138,354
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	6,451	174,410	180,862	△180,862	—
計	9,710,341	1,091,335	517,540	11,319,217	△180,862	11,138,354
セグメント利益又は損失(△)	△8,537	23,595	135,382	150,440	△144,533	5,907

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△144,533千円は、セグメント間取引消去△264千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△144,269千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。
3. その他事業は、各種販売支援事業及びオンライン・ゲーム事業であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 平成31年2月1日 至 令和元年7月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益計算書計上額
	インターネット通販事業	ビューティー&ヘルスケア事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,198,655	969,571	251,697	11,419,924	—	11,419,924
セグメント間の内部売上高又は振替高	532	10,416	50,746	61,695	△61,695	—
計	10,199,188	979,988	302,443	11,481,620	△61,695	11,419,924
セグメント利益	118,981	34,946	61,410	215,338	△141,632	73,706

- (注) 1. セグメント利益の調整額△141,632千円は、セグメント間取引消去△1,775千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△139,856千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。
3. その他事業は、各種販売支援事業及びオンライン・ゲーム事業であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。